⑹ 昆虫類　⑧ ヘビトンボ目

ヘビトンボ（広翅）目は完全変態をする昆虫ではもっとも原始的なグループで、世界におよそ260種が記録されていて、日本には2科5属16種が生息し、埼玉県には2科2属4種が生息するが、もう1種不確実な種が記録されている。

これまでのヘビトンボ目昆虫の掲載種数の変遷をみると、初版で1種、改訂版で2種、前版で3種となり、本書でも前版と同じ3種を掲載種としている。これは、県内から知られる4種に対して75%がレッドリストに含まれることになる。

成虫は前後翅の連結がないので飛び方は極めて稚拙であり、静止時には翅をたたみ込む。翅脈は比較的粗く、細かく分岐しない。昆虫としては大きな部類に入るヘビトンボ科（前翅長およそ50mm）と小さなグループのセンブリ科（前翅長およそ15mm）に分けられる。

ヘビトンボ科成虫は体が淡褐色から黒褐色で、頭部に3個の単眼をもち、大きな大顎も特徴的で、捉えると体をひねって噛みついてくる。5月から8月にかけて発生し、主に夜間活動し、灯火や樹液に飛来する。

幼虫はすべて水生で、生きた小昆虫などを発達した大顎で捕えて呑み込む。古来、子供の疳（かん）の薬として孫太郎虫と呼ばれ親しまれてきた。県内では嵐山町などで「かわむかで」という方言が知られている。また渓流釣りの餌として利用されることもある。両岸に樹木が茂り、流れが枝葉に覆われていて、比較的緩やかな瀞の水環境が好まれるが、低地帯・台地・丘陵帯のこのような環境では微量の人為的化学物質が検出され、影響が懸念される。低山帯や山地帯でも同様な懸念があり、流路の変更などによる生息環境の変化も考えられ、その生活基盤が脆弱であるため、3種のうち生息範囲の狭い2種をレッドリストに挙げたものである。

一方、センブリ科は小型あるいは中型の昆虫で、体は黒色あるいは黒褐色でずんぐりして幅広く、頭部に単眼を欠く。成虫は日中に水辺の草むらで活動し、ヤナギ類の花粉を食べるという記録があるが、県外ではアズマシャクナゲの花に多数が飛来している目撃例もあり（牧林，未発表）、様々な花の花粉を摂食しているのではないかと考えられる。

幼虫は人為的化学物質の影響の少ない止水、あるいは緩やかな流れの中に生息する。現在では、このような場所も極めて少なく、したがって限られた場所でしか生息せず、その存続基盤は脆弱と考えられる。

［付記］次ページの種ごとの解説における形態や国内分布に関する項目は、林（2005）などを参照した。

科　名　センブリ科　　埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **クロセンブリ**　　指定状況　－

〔学　名〕 *Sialis melania tohokuensis* Hayashi et Suda

【形　　態】 体はほぼ黒色で体長約 10mm、翅開長 35 ～ 40mm。翅脈と前翅基半部は黒褐色。成虫は単眼を欠き、第 4 跗節は扁平で葉状に広がる。

【国内分布】 本州、四国、九州　　本亜種は本州中部以北に分布

【主な生息環境】 緩流の水辺の草むらで昼間に活動し、ヤナギ類などの花粉を摂食する。幼虫は緩やかで水のきれいな河川、池沼に生活し、生きた小昆虫などを捕食する。

【県内での生息状況】 成虫は 4 月後半から 5 月に出現する。長瀞町からさいたま市までの荒川沿い、入間川沿いの飯能市、横瀬川沿いの横瀬町から記録されているが、記録例が少なく、生存基盤は脆弱である。

【特記事項】 県内で過去にセンブリ *S. sibirica* と記録されたのは、本種に該当する。本種幼虫は頭・胸部が茶褐色で腹節が黒褐色なのに対し、センブリの幼虫は全体が黒褐色。

科　名　ヘビトンボ科　　埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **タイリククロスジヘビトンボ**　　指定状況　－

〔学　名〕 *Parachauliodes continentalis* Weele

【形　　態】 体長 50mm 前後、翅開長 80 ～ 100mm。大型の水生昆虫。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 幼虫は、大河川よりも、溶存酸素の多い中流、細流の砂礫床の河川で、しかも砂礫の岸辺のある場所に生息する。流れが河畔林で覆われ、日陰あるいは半日陰になるような環境を好む。

【県内での生息状況】 台地・丘陵帯、低山帯、山地帯の中小河川の砂礫床に幼虫期を過ごし、成長すると水辺の礫や枯れ木の下で穴を掘り蛹化する。5 ～ 6 月に羽化。主に夜間に活動し、灯火や樹液に集まる。

【特記事項】 旧和名はクロスジヘビトンボ。河川の水生昆虫相の頂点にいる昆虫である。河川改修でコンクリート護岸などをされると生存に大きな打撃を受ける。

科　名　ヘビトンボ科　　埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－

〔和　名〕 **ヤマトクロスジヘビトンボ**　　指定状況　－

〔学　名〕 *Parachauliodes japonicus* (McLachlan)

【形　　態】 体は黄褐色～茶褐色で、体長約 50mm、翅開長 80 ～ 100mm。前翅に褐色斑をちりばめる。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 水のきれいな中小河川で、河床・河岸が砂礫で構成されている場所に生息する。河畔林があり、流れが木陰になるような場所を好む。

【県内での生息状況】 台地・丘陵帯、低山帯、山地帯の中小河川の砂礫床に幼虫は生息し、十分に成長すると岸辺に上陸し、礫などの下を掘ってその中で蛹化する。6 月頃羽化し、主に夜間に活動する。灯火や樹液に集まる。

【特記事項】 前翅Ｒ脈とＲｓ脈に囲まれた第２室からの分脈が１本であることから、それが２本の前種タイリククロスジヘビトンボ *R. continentalis* と区別できる。両種は同所的に生息しているが、本種の幼虫の方がより低酸素状態に耐えられるという。